



淀川愛好会 YODORIC NEWS

No.78 2017 年 6 月 発行

〈会員の窓 43〉

川づくり・地域づくり・まちづくり（市民活動）について

上田 豪

私が青年の頃、ボランティアというと、人知れずこつこつと行う慈善活動・奉仕活動というイメージがあった。社会問題の根本的解決方法ではないという認識でいた。しかし、ある時期からか、ボランティアは自らの思いや主張を具体化するための市民活動と同義語で語られるようになった。その手法は市民参画・協働と呼ばれ、行政との役割分担による社会的課題の解決をテーマに、福祉・人権から環境・まちづくりの分野に広がっていった。

ボランティア活動の時代的背景 まちづくりにおける人と人との繋がりとの再生

ー 支援ボランティア及び地域再生活動を通して地域・まちづくりの原点をみる

昭和 40 年代後半までの“高度経済成長”、そして昭和 60 年代から平成当初にかけての“バブル経済”も経験し、日本は、世界でも指折りの「経済大国」となり、市場には物があふれた。しかし、豊かさを手に入れはしたが、何かが違うと感じ始めていた矢先の 1991 年～93 年の“バブル崩壊”、人々は、新しい価値感を探り、動き始めているかのように見えた。その矢先の 95 年(平成 7 年)、6434 人の死者を出した阪神大震災が起きた。

想像だにできないような大量破壊と、大火災、その後に残ったガレキの山。それまで築き上げてきた街が、一瞬にして変わり果ててしまった。テレビ等を通して伝えられる惨状を目にして、事の重大さに、自分にも何かできないかと居ても立ってもおられないと、多くの市民が現地にかけつけた。

他人のことより、自分のことで精一杯、個人の生活を他人にかまって欲しくもないし、かまう気もないわ、と言ってしまうような風潮、他人とのコミュニケーションや連帯感が失われ、人と人との関係が希薄になりつつあった。そんな風潮を打ち破ったのがこの大災害であった。人々は、被災地に住む親戚や知人だけではなく、知る由もない不特定多数の被災者に対し助け合いを行ったのだ。それも、同じように現地に駆けつけたどこの誰かも知らない人々と協力しながら。積極的に自分の時間を割いて、自分のカネを使って。

何もかもが破壊され、日常生活の必需品にも事欠き、工夫を強いられた避難所やテント村での不便な生活は、同時に、被災者とボランティア双方に、今ある生活のあり方を、改めて見つめ直すきっかけにもなった。（4 ページに続く）

（ねや川水辺クラブ 企画委員長）

イベント案内

天若湖アートプロジェクト2017「あかりがつなぐ記憶」

日時：2017 年 7 月 2 日（日）日没後～深夜 （詳細は 3 ページ参照）

夏のイベント「近畿水環境交流会 in 淀川三川合流域」

日時：2017 年 7 月 29 日（土）・30 日（日） （詳細は別紙参照）

イベント報告

頭井 洋教授 退職記念講演会・祝賀会

3月11日（土）、淀川愛好会の会長を務められた都市環境工学科の頭井洋先生の退職記念講演会と祝賀会が摂南大学にて開催されました。講演会では、「土木と社会・研究と教育」というタイトルで、頭井先生が企業におられた当時から続けられてきた橋梁の桁制振装置である鋼製ベローズの研究や、25年に渡る摂南大学での教員生活についてお話しされました。学科の卒業生や退職された先生方が多数集まり、祝賀会も盛況でした。まだまだ研究を続けると言われていたので、先生のますますのご活躍を楽しみにしています。（I・Y）



三川合流さくらであい館オープニングイベント

3月25日（土）と26日（日）の2日間にわたり、さくらであい館のオープニングイベントでEボートの運航を行いました。中書島から八幡、八幡から島本までと今までにない長距離での運航で思った以上に流れも複雑で操船が大変でした。しかし、野鳥が飛んで行く姿を観たり、電車を真下から観たり、他のボートと競争したりと、長距離ならではの楽しさを体感することができました。（U・M）

春の親子花見乗船体験 in 京田辺・馬坂川

4月2日（日）に春の親子花見乗船体験にEボートを出しました。馬坂川の桜並木の下をEボートで下りました。私にとってはなかなか体験することができないものでした。親子連れの方々がとても楽しく乗船してくださいました。一人乗りのカヌーも体験することができ、子供たちが何度も楽しそうに乗っていました。（T・T）

友呂岐水路花見舟下り

4月8日（土）寝屋川市内にある友呂岐水路でEボートを運航しました。例年は桜の開花時期より早い3月末頃に実施されていますが、今年は4月上旬に行いました。それが功を奏し、満開の桜の下で開催することができました。朝はあいにくの雨で実施が危ぶまれましたが、お客さんの受付を始めるころには止みホッとしました。花見日和の晴天とはなりませんでしたが、水路の水面近くまで垂れた桜の枝の近くを通るときにお客さんからは驚きと喜びの声が上がっていました。途中また雨が降りましたが、パラパラ雨であったため最後まで運航することができてよかったです。（N・S）

大川クリーン活動「川で学び・つながる」

4月23日（日）に大阪市内を流れる大川で、午前中は川沿いの公園の清掃活動、午後はふれあいの水辺でEボートの運航と生物調査を行いました。午前中の清掃活動には150人以上の参加者が集まりました。午後のふれあいの水辺では50人くらいのお客さんにEボートを楽しんでもらいました。この他、投網で捕まえた魚の観察と解説を河川レンジャーに行っていただきました。子供たちは何かいるなあ一程度に見ていた魚達の姿を間近に見ることができ、大盛り上がりでした。石田ゼミの学生が捕まえてきた25cmくらいのミシシippアカミガメ（ミドリガメの成長したもの）にはみんな興味津々でした。（N・S）

春のイベント「淀川・点野水辺のつどい」

4月29日（土）に淀川・点野水辺の集いのイベントが行われました。午前中は点野砂洲について、どのような環境保全活動が行われているかや、歴史について貴重な説明を聞きました。歴史については、澤井先生と同行してツアー感覚で説明を聞いていたので、実際の現場などを見てイメージしやすかったです。環境保全活動の説明では、一般の人でも伝わりやすいよう、パネルを用いて要点が見やすく書かれていて、さらに写真などもあって、とても勉強になりました。午後からはEボートの運航準備をしましたが、急に悪天候になってしまったため、参加者を誰一人も乗せることはなく、Eボート運航は中止となり、残念でした。（H・M）

外来魚駆除釣り大会 in 淀川 2017

5月14日(日)10時～15時に城北ワンドで外来魚駆除釣り大会が行われました。約300人が参加しました。全体では侵略的外来種のブルーギルが935尾、オオクチバスが3尾、カダヤシが1尾と国内外来種のヌマチチブが51尾釣れ、私はブルーギル1匹と在来種のコウライモロコを釣ることができました。地曳網の実演では、たくさんの方が見学者がありました。(Y・M)



尼崎運河博覧会 「尼崎うんぱく 2017」

5月27日(土)、尼崎市の北堀キャナルベースにて尼崎運河博覧会(通称『尼崎うんぱく』)が開催されました。尼崎運河をにぎわいのあるスペースにするべく、様々な団体が屋台やフリーマーケットなどを開催していました。摂南大学PBLプロジェクトチームはEボート体験を開催しました。体験者の皆さんには、Eボートを通じ、少しでも水辺環境に興味を持っていただけたのではないかと思います。私自身も初めてのEボートの舵役やガイドなど、様々な体験ができて楽しめました。(F・S)



クリーンリバー寝屋川作戦・春

5月28日(日)にクリーンリバー寝屋川作戦で一級河川寝屋川等の12カ所(大谷〜からくる公園)の清掃に行いました。地域の方々の参加や各団体の協力があり、総勢408名の方々の参加がありました。胴長を着て川へ入りとても小さなゴミから大きな粗大ゴミなどを拾ったり、川の周りのゴミを掃除したりしました。毎年の継続の甲斐があつてゴミの数は徐々に少なくなっていました。(T・T)



ホタル鑑賞会

6月3日(土)、交野市の関西創価学園にて開催されたホタル観賞会に参加しました。はじめに、関西創価学園の生徒の皆さんからホタルの生態についての説明がありました。田舎育ちの私は、ホタル自体見るのは初めてではありませんでしたが、ここまで間近にたくさんのホタルは見たことがなく、草木に止まったり、飛び回ったりするホタルたちの小さくも力強く光る姿に改めて感動を覚えました。(F・S)

今後のイベント詳細

天若湖アートプロジェクト 2017「あかりがつなぐ記憶」

日時 2017年7月2日(日) 日没後～深夜

※荒天の場合、中止する場合があります

場所 日吉ダム(天若湖)周辺

受付 スプリングスひよし(京都府南丹市日吉町中宮ノ向8番地)

主催 天若湖アートプロジェクト実行委員会

共催 NPO法人アート・プランまぜまぜ

後援 京都府、南丹市、南丹市教育委員会、関西広域連合

協力 世木地域振興会、日吉ダム水没移転者協議会、水資源機構日吉ダム管理所、日吉ダム水源地域ビジョン連絡会、摂南大学石田ゼミ、摂南大学エコシビル部、NPO法人近畿水の塾、道の駅スプリングスひよし、アルファトラベル株式会社

参加費 無料

参加申し込み 不要



〈会員の窓 43 続き〉

上田 豪

自分の日常なのに、画一的で与えられたかのように、何か自分で創り上げた実感の少なかったそれまでの生活を問い直し、自分で創ることの大切さをこのボランティア活動を通して感じ取ったものだ。モノを手に入れる、買うことで生活上の欲求を充足する癖がついている私たちに、人間の生活の原点には、自分の生活に必要なモノ、共同体で必要とするモノ（公共物）やシステム（ルール）は、自分達自身や地域挙げての共同作業で創り上げて利活用して来たのだという、極めて当たり前のことに、人々の心の中に呼び戻したのだった。

そこでは、自分一人では手に負えないようなことは、関係する人々が協力し、皆で論議し、機能や目的を明確にし、それに見合った形態や規模を決定しながら、自分たちで汗をかき、生活や、地域に見合ったものを創っていたのだ。納得し、自分たちの手で創ったのだから、創る喜びもひとしおだっただろうし、出来上がったものは、さぞかし大切に扱ったことだろう。創ったものが長持ちし、その目的とする機能が十分発揮するよう維持管理には特に気を配っただろう。こんなところから故郷への愛着が生まれていた。

近年、特に都市部においては忘れられてしまったこのようなかつての生活づくり・まちづくりが、図らずもこの大震災の被災地で再現された。地域の一人一人が、全体として協力体制を整え、問題の解決にあたったという事だ。ここにこそ、地域づくり（自治）の原点を見て取ることができるのではないだろうか。

この中に、これからの時代に求められる、市民の街づくりへのかかわり方のヒントがあると確信したものです。

（ねや川水辺クラブ 企画委員長）

〈会員の窓 44〉

3か月間とこれから

山内 将之

私は摂南大学に入ってから土木から環境の分野までたくさんのことを学ばせてもらいました。4回生になり石田ゼミに配属され、ゼミの活動が盛んで忙しくも楽しい日々を送っています。ゼミの活動を通してたくさんの方々との交流や自然体験学習ができるのでとても勉強になります。また卒業研究では点野砂州の再整備に関わる研究をしていて、今は点野砂州の測量を主に取り組んでいます。これまでの私はあまり環境や自然に関わる事がなかったので、日々新しい経験をしているなと思っています。

さらにゼミの活動が増えよりいっそう忙しくなりますが、自分自身を成長させるためにこれからの活動に精力的に取り組んでいきたいです。

（摂南大学 理工学部 都市環境工学科 4回生）

編集後記

新年度になって本誌の書き手は、ヴェテランの北村美紗樹（M2）さん以外はrenewalされました。新たなるreportersは、理工学部生態環境学研究室（石田裕子准教授主宰）所属の卒研生、奥西健斗、小野寺将輝、福島大和（主幹）、藤村 聡（主幹）、三谷英樹および山内将之の諸君6名です。

彼らの筆捌きが回を重ねる毎にスマートになり、上達して行くのをご期待ください。

編集長 相本太刀夫（元摂南大学薬学部教授）

淀川愛好会事務局：〒572-8508寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP：<http://www.setsunan.ac.jp/civ/yodoric>

E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp

“活かそう水辺，つながり流れ” 「近畿水環境交流会 in 淀川三川合流域」

参加申し込みのご案内

日時 2017 年 7 月 29 日（土）・30 日（日）

場所 1 日目 男山、淀川三川合流域さくらであい館
2 日目 淀川河川公園背割堤地区河川敷

内容 1 日目 9:30 見学会受付（京阪電車八幡市駅改札口前）
10:00 石清水八幡宮、エジソン記念碑、飛行神社、放生川、さくらであい館見学
13:30-14:00 シンポジウム受付（淀川三川合流域さくらであい館イベント広場）
14:00-17:00 シンポジウム
14:00- 開会挨拶 実行委員長 水辺に学ぶネットワーク会長 澤井健二
祝辞 八幡市長 堀口文昭氏
14:15- 講演 1 淀川河川事務所副所長 寺内雅晃氏「淀川河川公園、今後の展望」
講演 2 京都産業大学教授 鈴木康久氏「舟運から見た京都の川、歴史と文化」
15:45- 参加団体活動紹介（5 団体程度）
17:30-19:00 懇親会（久御山町 食堂市番）
2 日目 8:30- 9:00 受付（背割堤地区舟着き場前）
9:00- 9:30 河岸清掃
9:30-10:00 開会式
10:00-12:00 木津川で種々の水面利用の実践
（生物観察、水質測定、距離測定、流速測定ほか）
12:00-13:00 昼食休憩（昼食は各自持参、希望者には弁当予約販売あり）
13:00-15:00 E ボートレース（宇治川）
15:00-15:30 閉会式、後片付け
（荒天の場合は午前中にさくらであい館でワークショップ、午後も天候が回復しない場合は昼食後解散）

参加費 無料（但し、懇親会は 3000 円）

参加申込み 2017 年 6 月 15 日～7 月 15 日（申し込み先：淀川愛好会事務局）

主催 近畿水環境交流会・河川フォーラム実行委員会
（主な構成団体：淀川愛好会、河川協力団体近畿連絡会、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会、
摂南大学石田ゼミ・エコシビル部）

